



「池子の森自然公園 ホタルの会通信」

(2024 年 9 月 30 日)

編集：池子の森自然公園「ホタルの会」

▶ 秋のホタル幼虫調査！

「ホタルの会」では、1 昨年から 8 月以降も毎月 1 回のペースで幼虫調査を実施しています。9 月 24 日に行った調査では、ほぼ昨年と同様の調査結果が得られました（表-1）。

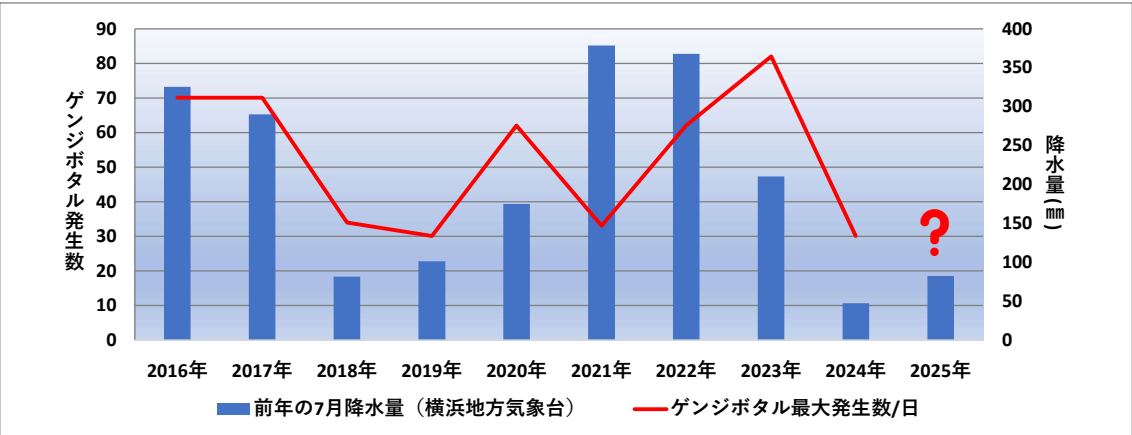
久木池上流①では、生息環境を消失するような大きな出水に見舞われなければ来夏もヘイケボタルの発生は順調と思われますので、ホタル観察会が今年と同様の規模で開催できますね（少し早いですが🥳）。

表-1 久木池上流①の幼虫調査結果

調査実施日	調査地点		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	種・確認場所		久木池下流①	久木池下流②	西の谷戸	西の谷戸③	久木池上流①	久木池上流②	東の谷戸①	東の谷戸②
2023年 9月23日	ゲンジボタル 陸上									
	ゲンジボタル 水中									
	ヘイケボタル 陸上									
	ヘイケボタル 水中									
	スジグロボタル 陸上						5			
2324年 9月24日	スジグロボタル 水中									
	不明、その他 陸上									
	不明、その他 水中		9		2	1	40	19		
	ゲンジボタル 陸上									
	ゲンジボタル 水中		4	2	1					
	ヘイケボタル 陸上									
	ヘイケボタル 水中						3	3		
	スジグロボタル 陸上						3		2	
	スジグロボタル 水中									
	不明、その他 陸上				1*		9			
	不明、その他 水中		8			12	45	23		

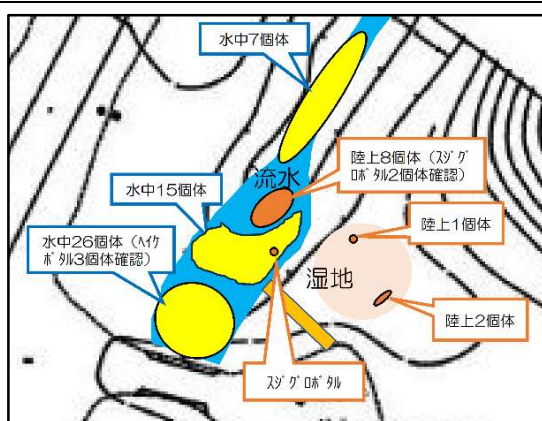
注1) 幼虫のほとんどが若齢個体で同定が困難であったこと及び数が多いため同定作業が追いつかなかったことから、不明個体が多くなった。
注2) *：オハボタル

一方で、今年も 7 月の降水量が 100mm以下でした。久木池下流①では 7 月の降水量 100 mm以下の場合、翌年の成虫の発生が明らかに少なくなっています（図-1）。ゲンジボタルの幼虫は 7 月に孵化して水中の生活を開始しますが、移動する力も弱くホタルの生活史の中で最も脆弱な時期です。今年も昨年と同様に 7 月下旬に完全に水が枯れた河床が発生しました。恒例だった芝生広場での観察会、来夏の実施は難しい見込みです。



注 1) 2020 年には、2019 年秋季の出水の影響（河床の荒廃、幼虫流出）を考慮して、繁殖飼育したゲンジボタル幼虫 168 個体の放流を 3 月に実施しています。
注 2) 2021 年は前年の降水量が多いにもかかわらずゲンジボタルの発生数が少ないのは、2019 年の出水の影響が残っており、生息環境が回復していなかったのではないかと考えられます。なお、この年はゲンジボタル幼虫の放流は実施していません。

図-1 前年 7 月の降水量とゲンジボタル発生数（久木池下流①）



久木池上流①、幼虫調査結果



久木池上流①
ハイケボタル生息環境（流水部下流側）



ハイケボタル幼虫、20 時 1 分



同左



久木池上流①、
スジグロボタル生息環境（流水部）



スジグロボタル幼虫、19 時 43 分

9 月 24 日、ボタル幼虫調査状況（久木池上流①）



オバボタル幼虫、西の谷戸、19 時 13 分